

公益社団法人日本天文学会 代議員総会議事録

日 時：2014年1月26日（日） 13:00–17:00

場 所：東京大学理学部1号館中央棟3階336号室

出席代議員：岡村、海部、柴田、奥村、田村、河合、半田、市川、吉田（道利）、井上、
吉川、佐藤、太田、山田、縣、櫻井、寺澤、吉田（直紀）、藤沢、百瀬、長尾
（以上21名）

欠席代議員：観山、望月、渡部、小久保、常田、梅村、馬場、牧島、福井、杉山、林、芝
井、
土居、富阪（以上14名）

また、北本研究奨励賞選考委員長、綾仁天体発見賞選考委員長、中村・本原庶務理事、熊
谷・松尾会計理事、西野事務長、黒岩職員が出席した。櫻井会長と奥村・山田副会長は代
議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席者が21名で定足数を満たし、本会が成立することが確認さ
れた。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：櫻井 隆

署名人：櫻井 隆

II. 報告

II-1 理事会（2013年12月8日）報告（中村）

2014年度事業計画書と予算書が承認された。公益社団法人に移行後、会計年度が
1月開始から4月開始に変更になったことに対応するため、短期契約職員との契
約期間も2015年度から4月開始とし、会計年度と一致するように変更する予定で
ある。天文学会事務所職員の就業規則、給与規定等の改定を進めている。学会の
ホームページ更新については引き続きネットワーク委員会で議論し、来年度初め
には更新作業を開始する予定である。

II-2 学術会議関連報告（資料3、岡村）

30–45歳の連携会員を対象に若手アカデミーを設立することが決まった。マスタ
ープランについては、分科会として8件を推薦した。重点大型計画についてヒア
リングが66件実施された。分科会関係分は、SPICA、SKA、LiteBIRDの3つで
ある。重点大型研究計画は25件選ばれ、来年3月に提言が出される予定となっ
ている。会員・連携会員の改選に伴い、推薦の取りまとめを行っている。

天文学・宇宙物理学分野の中規模計画を冊子にまとめた。宇宙科学の推進につい

て、「宇宙科学に一定額を確保」という政府の方針を受けてロードマップの議論が進んでいる。新規中規模計画について、広島大 SGMAP の説明があった。

II-3 IAU 報告（資料 4、岡村）

IAU の名簿の更新作業について、新たに約 100 人分の調査が来た。分科会の活動として、アウトリーチ活動に対して積極的に後援を行なっていくという方針を打ち出している。それに関連し、提案された後援事業候補を承認した。うるう秒廃止提案に関する IAU の対応を検討するワーキンググループで、現状維持を強く主張する委員がいるために何らかの結論を出すことが難しい状態になっている。

II-4 第 3 期代議員選挙について（資料 7、中村）

第 3 期代議員(17 名)の選挙結果が報告された。代議員選挙施行細則・第 10 条により、当選者は得票順に決定し、1 月 20 日発行の月報 2 月号に掲載した。第 3 期代議員の任期は 2015 年 4 月から 2019 年 3 月までの 4 年である。

II-5 杉並区立科学館について（縣）

老朽化のため、杉並区立科学館が廃止されることが決定された。プラネタリウムなどの天文関係の施設が減るのは、天文教育にとっては良くないことである。機会があれば廃止されないよう要望を出して頂きたい。

II-6 天文月報への年会プログラム掲載について（資料 11、中村）

経費削減のため、2014 年 9 月秋季年会から、年会プログラムを月報に掲載しないことが理事会で決定された。これにより、年間 25 万円ほどの経費節減が見込まれる。その代わりに会員へのサービスとして、2014 年 3 月春季年会から年会ホームページに年会プログラム pdf 版を公開する。この対応については、2014 年 3 月春季年会会員全体集会で会員からの意見を聞く予定である。年会プログラム pdf 版の平行セッション一覧表に講演者と講演タイトルも追加するよう（以前は掲載されていた）要望が出された。なお、年会の申込時期を繰り下げ、開催時期との時間差を短縮する方法について引き続き検討するよう理事会へ要望が出された。

III. 議題

III-1 公益社団法人日本天文学会 2014 年度事業計画書案の承認（資料 5、中村）

誤字の修正を行った上で、全会一致で承認された。

III-2 公益社団法人日本天文学会 2014 年度予算書案の承認（資料 6、熊谷）

本年 1 月より欧文研究報告の製作と販売を Oxford University Press に委託したことに伴い、予算の細目に「欧文研究報告外注費」および「欧文研究報告宣伝費」を追加した。また、学会ホームページ更新のために広報活動経費として 200 万円、会員名簿作成のために印刷製本費 100 万円を計上した。その他は概ね例年通りの予算になっていることが説明された。以上の議論の後、全会一致で承認された。

III-3 2014 年度各賞受賞者の決定

- 林忠四郎賞（資料 8、岡村）
林忠四郎賞、欧文研究報告論文賞選考委員長である岡村代議員より、選考経過、及び最終候補者に山本智氏を推薦する理由が説明された後、同氏に授賞することが全会一致で承認された。なお、今回の選考は以下のように行ったことが説明された。当初、月報および tennet で周知させた締切を過ぎた段階で推薦が 1 件しかなかったため、できるだけ広く優れた候補者を挙げてその中から候補者を選考するという委員会方針に基づいて、締め切り日以降に選考委員が、学会の正会員や天文学に関して学識のある個人に推薦を働きかけた。その結果総計 4 名の被推薦者を得て、それらの被推薦者を全く同じ条件で審議した。
- 欧文研究報告論文賞（資料 8、岡村）
同じく選考委員長の岡村代議員より選考経過、及び Matsuoka et al. (2009)、Narita et al. (2009) の 2 篇を推薦する理由が説明され、推薦通りに授賞することが全会一致で承認された。
- 研究奨励賞（資料 9、北本）
北本研究奨励賞選考委員長より、選考経過、及び最終候補者に小島崇文、當間賢二、成田憲保の 3 氏を推薦する理由が説明され、推薦通り授賞することが全会一致で承認された。なお、候補者の業績を測る上で投稿論文などの内外へのインパクトは重要であるという意見が出された一方、大きなプロジェクトで行っている研究・開発について、投稿論文数やその引用数等では測れない大きな寄与がある場合も研究奨励賞の対象となり得るという議論があった。
- 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞（資料 10、綾仁）
綾仁天体発見賞選考委員長より、天体発見賞 5 名/1 グループ 20 件、及び天体発見功労賞 1 名 1 件、天文功労賞（長期部門）1 名 1 件、天文功労賞（短期部門）1 名 2 件の推薦理由が説明され、推薦通り授賞することが全会一致で承認された。また、昨年の代議員総会で自治体等の公開天文台での発見を同列に取り扱うことに対して見直す必要があるのではないかという問題提起がなされたことに対し、委員会で検討し、公開天文台における天体発見に対しても、それらの発見が天文学に貢献していることを考えれば、少なくとも何らかの表彰は必要であるという委員会の方針が示された。公開天文台には様々な形態があることから、個人に賞を与えるか、団体に与えるかについては、それぞれの発見について柔軟に決めるのが良いということが了承された。

[資料リスト]

資料 1 代議員総会出欠表

- 資料 2 前回(2013年9月11日)代議員総会議事録確認
- 資料 3 学術会議報告
- 資料 4 IAU 報告
- 資料 5 2014 年度事業計画書 (案)
- 資料 6 2014 年度予算書 (案)
- 資料 7 第 3 期代議員選挙結果
- 資料 8 2013 年度林忠四郎賞および欧文研究報告論文賞選考報告書
- 資料 9 2013 年度日本天文学会研究奨励賞候補推薦理由書
- 資料 10 2013 年 1 月～12 月期の天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞候補者の推薦
- 資料 11 年会プログラム月報掲載について

2014 年 1 月 26 日

議長・署名人：櫻井 隆 印